千葉県袖ケ浦市

寺野台遺跡(5)(7)

一境内整備に伴う埋蔵文化財調査報告書一

2016

宗教法人 真光寺 袖ケ浦市教育委員会

千葉県袖ケ浦市

てらのだい 寺野台遺跡 (5)(7)

一境内整備に伴う埋蔵文化財調査報告書一

2016

宗教法人 真光寺 袖ケ浦市教育委員会

袖ケ浦市が位置します西上総地域は、房総半島の東京湾側中央部にあたり、海を通じて西からの進んだ文化や技術が伝わる房総半島の玄関口でした。とりわけ小櫃川流域は、豊かな自然の恩恵によって発展し、盛んな対外交流により、最新の文化を積極的に取り入れていった地域でした。

小櫃川流域の中でも特に川原井地域においては、古代の村落内寺院と考えられている東郷台遺跡などや、土器の生産に関わる遺構が発見されている永吉台遺跡群や樋爪遺跡など、平安時代の仏教文化や土器生産を物語る遺跡が多く存在しています。

寺野台遺跡は、過去の調査により平安時代の集落跡であったことがわかっていますが、今回の調査においても平安時代の住居跡のほか、 変や坏などを焼き上げていた土器焼成遺構が見つかりました。土器焼成遺構の一つからは大量の土器が出土し、当時の土器製作の様相を考えるうえで大変貴重な発見となりました。

この度、これらの成果を発掘調査報告書として刊行することとなりました。本書が学術資料としてはもとより、郷土の歴史を知るための教育資料として幅広く活用され、袖ケ浦の教育全般の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、千葉県教育庁教育振興部文化財課の方々には、 発掘調査から本書の刊行に至るまでご指導を頂き、厚くお礼申し上げ ます。また、宗教法人真光寺及び関係者の皆様に、文化財行政へのご 理解とご協力を頂きましたことに対しまして心から感謝申し上げ、刊 行のあいさつといたします。

平成 28 年 3 月

袖ケ浦市教育委員会教育長 川島 悟



1. S X 016 遺物出土状況① (北→)



2. S X 016 遺物出土状況② (西→)

例 言

- 1 本書は、千葉県袖ケ浦市川原井字寺地 634 番地他に所在する寺野台遺跡(遺跡コード: SG 098) 第5次、 第7次調査の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、宗教法人真光寺からの委託による境内整備に先立つ調査として行われ、千葉県教育委員会 の指導のもと、袖ケ浦市教育委員会が実施した。
- 3 発掘調査面積と期間、担当者は以下のとおりである。

第5次調査(本調査)

〔調査面積〕400 m²

[調査期間] 平成 25 年 12 月 10 日~平成 26 年 1 月 20 日

〔担当者〕田中 大介

第7次調査(本調査)

〔調査面積〕458 m²

〔調査期間〕平成26年8月25日~同年10月7日

〔担当者〕田中 大介

- 4 本書の執筆は、大河原務が担当した。
- 5 今回の発掘調査に伴う出土遺物・記録類等は袖ケ浦市教育委員会で保管している。

凡 例

- 1 基準点測量は世界測地Ⅸ系を用いた。方位は座標北を表している。
- 2 本書で使用した地形図は、以下のとおりである。

第1図 国土地理院発行 25,000 分の1 地形図 「姉崎」「上総横田」

第2図 袖ケ浦市発行 2,500分の1地形図「No.29」

- 3 図の縮尺・凡例は遺構・遺物ともに各図に明記した。
- 4 本書で使用した遺構の「SK」は土坑、「SI」は竪穴住居跡、「SX」は竪穴状遺構を示し、遺構図中の「K」は攪乱を示している。
- 5 本遺跡の調査は数次にわたり実施されているため、括弧付けの数字で調査次数を示している。第5次調査→(5)

目 次

序文
例言
I 序章・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
1 調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2 調査組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
3 遺跡の立地と周辺の遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
4 調査及び整理作業の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
Ⅲ 寺野台遺跡(5)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
1 調査成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
2 縄文時代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
(1) 陥穴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
3 奈良・平安時代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(1) 竪穴住居跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
(2) 土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
Ⅲ 寺野台遺跡 (7)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1:
1 調査成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2 奈良・平安時代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
(1) 土器焼成遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
(2) 土器集中区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
(3) 土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
IV 総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
挿 図 目 次
第1図 寺野台遺跡周辺遺跡分布図
第2図 寺野台遺跡調査区及び周辺地形図
第3図 寺野台遺跡(5)遺構配置図
第4図 SK 117 遺構及び出土遺物実測図
第5図 SI 015、SK 121、122 遺構及び出土遺物実測図
第6図 SK116、118~120、123遺構及び出土遺物実測図
第7図 寺野台遺跡(7)遺構配置図
第8図 SX 015 遺構及び出土遺物実測図
第9図 SX 016、SK 126 遺構実測図
第 10 図 S X 016、S K 126、土器集中区遺物出土状況図

第11図 SX 016遺物出土状況図①

第12図 SX 016遺物出土状況図②

第13図 SX 016遺物出土状況図③

第14図 SX 016遺物出土状況図④

第15図 SX 016 出土遺物実測図①

第16図 SX 016出土遺物実測図②

第17図 SX 016 出土遺物実測図③

第18図 SX 016 出土遺物実測図④

第19図 SX 016 出土遺物実測図⑤

第20回 SK126、土器集中区出土遺物実測図

第21図 SK124、125遺構及び出土遺物実測図

表目次

表 1 寺野台遺跡(5)出土遺物計測表

表 2 寺野台遺跡 (5) 出土遺物観察表

表 3 寺野台遺跡 (7) 出土遺物計測表

表 4 寺野台遺跡 (7) 坏底部調整別計測表

表 5 寺野台遺跡 (7) 出土遺物観察表

原色図版目次

巻頭カラー図版 SX 016 遺物出土状況

白黒図版目次

図版1 寺野台遺跡(5)検出遺構① 図版2 寺野台遺跡(5)検出遺構②、出土遺物

 図版3
 寺野台遺跡(7)検出遺構①
 図版4
 寺野台遺跡(7)検出遺構②

 図版5
 寺野台遺跡(7)出土遺物①
 図版6
 寺野台遺跡(7)出土遺物②

図版7 寺野台遺跡(7)出土遺物③ 図版8 寺野台遺跡(7)出土遺物④

I 序章

1 調査に至る経緯

袖ケ浦市川原井字寺地 629 番地 1 他における寺院建設に先立ち、平成 15 年 4 月 16 日付け及び平成 17 年 6 月 20 日付けで宗教法人真光寺 代表役員 岡本和幸から「埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて」の照会があり、照会地は周知の遺跡である寺野台遺跡内にあたる旨を回答した。事業者との協議を経て、事業地内 7,600 ㎡について平成 17 年度に確認調査を行い、平成 17 年度に 990 ㎡、18 年度に 731 ㎡、平成 20 年度に 167 ㎡の本調査を実施している。

平成 17 年度に確認調査を実施した 7,600 ㎡の事業地内にあたる袖ケ浦市川原井字寺地 634 番地、629 番地 2 について、宗教法人真光寺より境内整備に伴う問い合わせがあり、協議を行った結果、記録保存の措置を講ずるとの結論に達し、平成 25 年度に対象面積 400 ㎡、平成 26 年に対象面積 458 ㎡の本調査を実施することとなった。

発掘調査及び整理作業は袖ケ浦市教育委員会が行った。

2 調査組織

袖ケ浦市教育委員会

平成25年度

 教育長
 川島 悟
 教育部長
 蔭山 弘

 教育部次長
 鈴木 和博
 教育部参事兼生涯学習課長 井口 崇

生涯学習課文化振興班

副課長兼文化振興班長 西原 崇浩 副主幹 桐村 久美子

副主査 田中 大介(調査担当) 副主査 前田 雅之

平成 26 年度

 教育長
 川島 悟
 教育部長
 蔭山 弘

 教育部次長
 鈴木 和博
 教育部参事兼生涯学習課長 井口 崇

生涯学習課文化振興班

 副課長兼文化振興班長
 西原
 崇浩
 副主幹
 諸墨
 知義

 副主査
 田中
 大介(調査担当)
 副主査
 前田
 雅之

平成 27 年度

 教育長
 川島 悟
 教育部長
 鈴木 和博

 教育部次長
 森田 泰弘
 教育部参事兼生涯学習課長 原田 光雄

生涯学習課文化振興班

副課長兼文化振興班長 西原 崇浩 副主査 田中 大介

副主査 前田 雅之 主任主事 大河原 務(整理担当)

3 遺跡の立地と周辺の遺跡

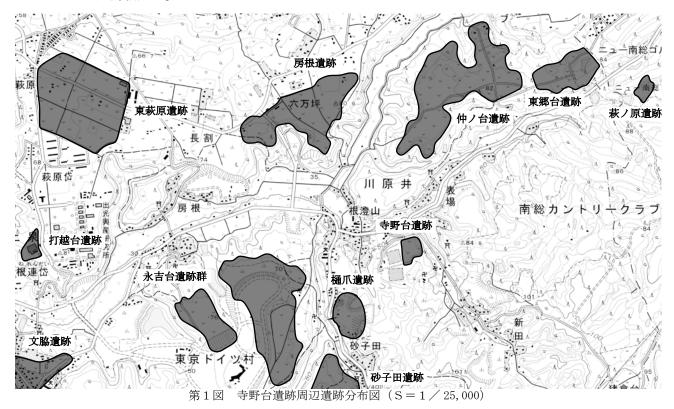
立地 袖ケ浦市は千葉県の東京湾沿岸のほぼ中央にあり、市内南部は、小櫃川の流れを受けて発達した低地と上総丘陵の北端である丘陵地帯から構成される。本遺跡は小櫃川流域右岸、小櫃川の支流である松川流域左岸の標高約60mの台地上に位置する。

周辺遺跡 本遺跡周辺には、東郷台遺跡、萩ノ原遺跡、永吉台遺跡群、樋爪遺跡などの奈良・平安時代の遺跡が多く存在している。東郷台遺跡では四面廂建物跡や瓦塔が検出され、萩ノ原遺跡では基壇2基や礎石を有する建物跡4棟が検出された。永吉台遺跡群では西寺原地区から、9世紀後半から10世紀前半頃のロクロピットが検出された住居兼工房跡15軒や土器焼成遺構60基が検出され、樋爪遺跡でも土器焼成遺構3基や粘土採掘坑が検出されている。このように本遺跡周辺には寺院や土器生産との関係がある遺跡が所在している。

4 調査及び整理作業の方法

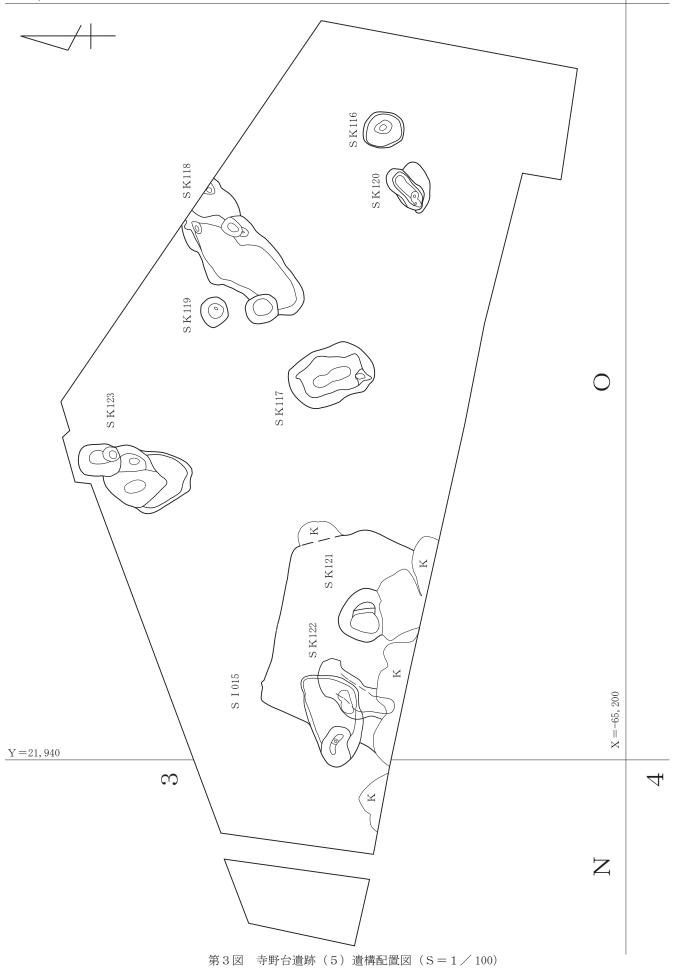
グリッドは、過去の調査を踏襲し、20 m四方の大グリッド、大グリッドを 100 分割した小グリッドを設定した。大グリッドは、起点より東西方向はA、B、C・・・、南北方向は1、2、3・・・と番号を付した。小グリッドは、北西隅から 00、01、02・・・北東隅を 09、南西隅を 90、南東隅を 99 と番号を付した。グリッド起点は世界測地系に基づき X=-65, 140、Y=21, 660 とした。

表土除去はバックホウにより行った。遺構の記録は、平板測量により平面図を作成し、縮尺は20分の1を基本とした。遺構番号は過去の調査から連続する番号を採用し、3桁の数字で表した。発掘調査の写真撮影は、中型カメラをメインカメラとし、フィルムは白黒6×7判を使用した。サブカメラとして35mm小型カメラを使用し、フィルムは白黒とカラーリバーサルを使用した。報告書に掲載する遺物の撮影は、デジタルカメラを使用した。



- 2 -





Ⅱ 寺野台遺跡(5)

1 調査成果

調査対象地は寺野台遺跡の北東部に位置し、北側へ向けて緩やかに傾斜している。調査の結果、縄文時代の陥穴1基、奈良・平安時代の竪穴住居跡1軒、土坑7基が検出された。本遺跡で縄文時代の遺構が検出されたのは初である。調査区全域、特に北西部は、後世の掘削により削平されていた。

2 縄文時代

(1) 陥穴

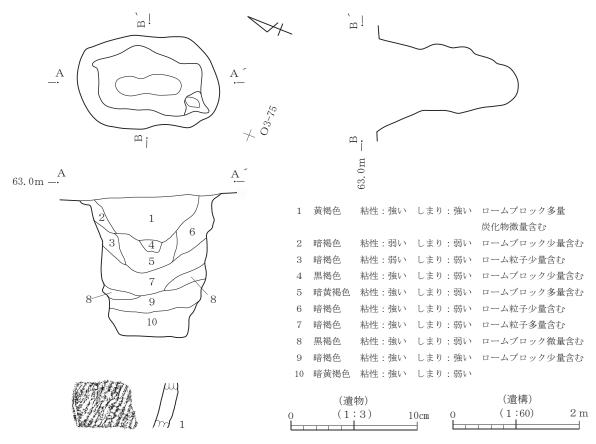
SK117 (第4図、図版1、2)

位置 〇3-65グリッドを中心に位置する。

形態 長軸 225cm、短軸 142 cmの長楕円形を呈する。深さ 234 cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がり、上部でわずかに開く。

遺物 総量は87.28 g である。1は縄文土器胴部片であり、5 層より出土した。単節 L R 縄文、縦方位の 沈線文が施文される。加曽利 E 式と思われる。

S K117



第4図 SK117遺構及び出土遺物実測図

3 奈良·平安時代

(1) 竪穴住居跡

S I 015 (第5図、図版1、2)

位置 O3-61、62、63 グリッドに位置する。

形態 東-西軸 530 cm、南-北軸は調査範囲外及び後世の削平によりに不明である。平面形は方形と思われる。深さは壁が最も良好に残存する南壁で 23 cmを測り、壁は緩やかに立ち上がる。 S K 121、122 と重複し、構築順は S K 122、 S I 015、 S K 121 の順と思われる。 貼床は確認できるが、後世の削平による影響か部分的にしか確認できなかった。カマドは西壁に位置し、明確な被熱範囲は不明であるが、 焼土層、炭化物から、燃焼部(8層)、袖部(7層)、煙出部(3~5層)と判断した。 壁溝、柱穴などの施設は確認できなかった。

遺物 総量は 699.18 g で、ほとんどが土師器である。1 は台付坏である。断面三角形の高台を貼り付け、 内面に黒色処理を施している。2 は小型甕であり、外面体部に縦方向のヘラケズリ、内面に横方向のヘラ ナデを施す。カマド焼土上から集中して出土している。

(2) 土坑

SK116 (第6図、図版1)

位置 03-68 グリッドに位置する。

規模 長軸 112 cm、短軸 100 cmの楕円形を呈する。深さ 25 cmを測り、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物なし。

SK118 (第6図、図版1、2)

位置 O3-45、46 グリッドに位置する。

規模 長軸 385 cm以上、短軸 183 cmの長楕円形を呈する。遺構北側は調査区外であるため、詳細は不明である。深さ 23 cmを測り、壁は緩やかに立ち上がる。底面は全体的に平坦であるが、焼土、炭化物が検出している遺構北部のみわずかに窪んでいる。

遺物 総量は 469.37 g で、ほとんどが土師器である。1は甑であり、口縁部下に台形状の突起を持ち、外面に輪積みの痕跡が残る。2は置きカマドである。遺構北部の焼土、炭化物周辺から多くの遺物が出土している。土師器坏、甕のほか、須恵器甕や焼成粘土塊が出土している。

SK119 (第6図、図版2)

位置 O3-45 グリッドに位置する。

規模 長軸 80cm、短軸 72 cmの楕円形を呈する。深さ 25 cmを測り、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物 総量は261.71 g である。1は置きカマドである。輪積み成形であり、内外面ともに横方向のナデ を施す。チャート質の礫が出土しているが、被熱・破損は確認できない。

SK 120 (第6図、図版2)

位置 03-77 グリッドに位置する

規模 長軸 137 cm、短軸 94 cmの長楕円形を呈する。深さ 55 cmを測り、壁は斜めに立ち上がる。

遺物 総量は94.5 gであり、ほとんどが土師器である。小片のため、図化はしていない。

SK121(第5図、図版1、2)

位置 O3-62 グリッドに位置する。

規模 長軸 138 cm、短軸 116 cm以上の楕円形を呈する。遺構南側は攪乱のため詳細は不明である。深さ 42 cmを測り、壁は斜めに立ち上がる。SI 015 と重複しており、本遺構の方が新しい。

遺物 総量は 131.53 g である。 1 は縄文土器胴部片である。 S I 015 との重複関係、出土層が覆土上層 であることから、本遺構に伴うものではなく、流れ込んだものと思われる。

SK 122 (第5図)

位置 O3-61 グリッドに位置する。

形態 長軸 221 cm以上、短軸 90 cmの長楕円形を呈する。遺構南側は攪乱のため詳細は不明である。深さ 46 cmを測り、壁は斜めに立ち上がる。SI 015 と重複しており、本遺構の方が古い。

遺物 総量は3.38 gであり、すべて土師器である。小片のため、図化はしていない。

SK123 (第6図、図版2)

位置 O3-33 グリッドに位置する。

規模 長軸 306 cm、短軸 166 cmの不定形を呈する。深さ 58 cmを測り、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物 総量は2.76 gであり、すべて土師器である。小片のため、図化はしていない。

表 1 寺野台遺跡(5)出土遺物計測表

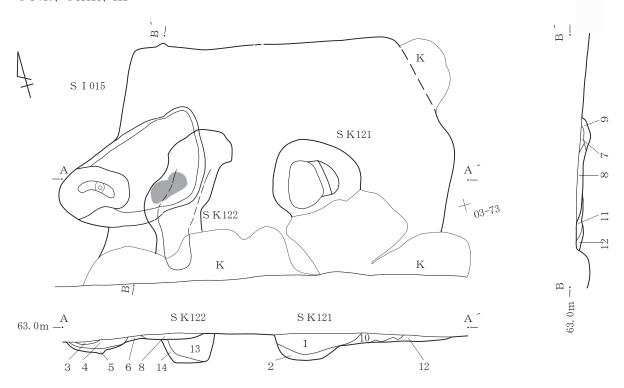
(単位: g)

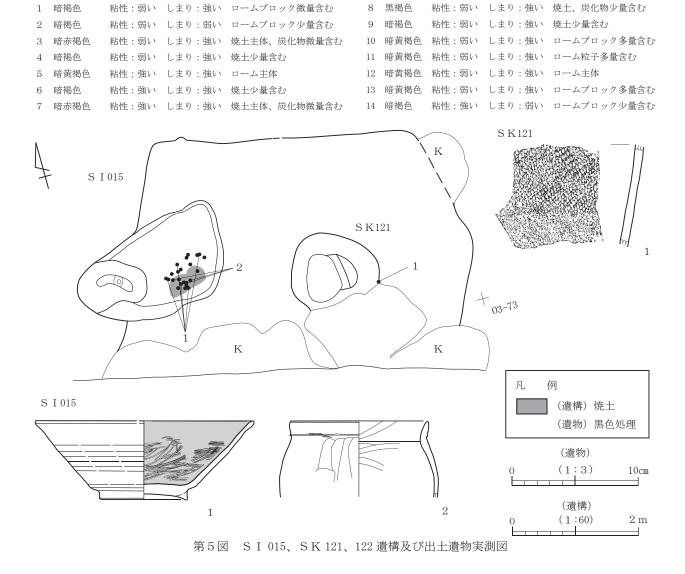
遺構名		土角	币器		細片	土師質 須恵器	須恵器	灰釉陶器	縄文土器	礫	粘土塊 (焼成)	合計
	坏	甕	置きカマド	魱		甕	甕				(75172)	
S I 015	337.94 (227.84)	330. 79								22. 37	8.08	699. 18
S K 117		2.55							65.67	19.06		87. 28
S K 118	100.14 (41.26)	184. 48	66.10	30.13	22. 49	20. 94	8.19	11.55			25.35	469. 37
S K 119			166.77		16.77					78. 17		261.71
S K 120	41.02				37.08	16.40						94.50
S K 121	23.06	30.65			9.03				68. 79			131.53
S K 122					3.38							3.38
S K 123	2.76											2.76
遺構外	260.85 (55.05)	852.44								20.97		1, 134. 26
合計	765.77 (324.15)	1, 400. 91	232. 87	30. 13	88. 75	37. 34	8. 19	11.55	134. 46	140. 57	33. 43	2, 883. 97

※坏()は、内面:黒色処理を示す

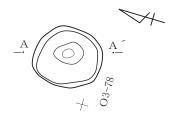
表 2 寺野台遺跡 (5) 出土遺物観察表

									():復元
遺構名	遺物 番号	器種	部位 依存率	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	重量 (g)	色調	調整技法等	備考
S I 015	1		体部:50% 底部:70%	(17.5)	6. 7	6. 4	184. 67	にぶい黄褐	ロクロ成形 外面: (体部下部)回転ヘラケズリ 底部:回転ヘラケズリ 内面:横ミガキ、黒色処理	
S I 015	2	土師器 小型甕	口縁部:20%	(10.7)	6.2∼	_	61.75	橙	外面: (体部上部) 縦ヘラケズリ 内面: 横ヘラナデ	
S K117	1	縄文土器深鉢	胴部破片	ı	4.7~	_	65. 67	にぶい黄褐	単節 L R 縄文 縦方向沈線 1 条	加曽利E式
S K118	1	土師器 甑	胴部破片	_	5.4∼	_	30. 13	にぶい黄褐	ロクロ成形 外面:横ナデ 内面:横ナデ	
S K118	2	土師器 置きカマド	上部:20%	_	3.4∼	_	66. 10	にぶい黄褐	外面:横ナデ 内面:横ナデ	
S K119	1	土師器 置きカマド	上部:30%	(12. 8)	6.4~	_	166. 77	にぶい黄褐	外面:横ナデ 内面:横ナデ	
S K 121	1	縄文土器 深鉢	胴部破片	ı	7.6∼	_	68. 79	にぶい黄褐	単節 L R 縄文	



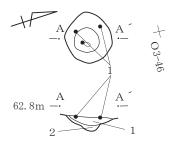


S K116



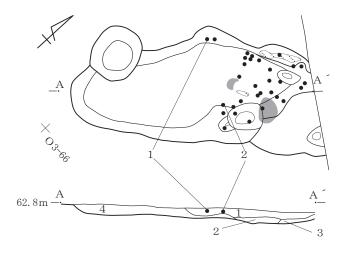


S K119



- 1 暗褐色 粘性:弱い しまり:強い ロームブ粒子少量含む
- 2 暗褐色 粘性:弱い しまり:強い ロームブロック少量含む

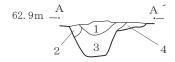
S K118



- 1 暗褐色 粘性:弱い しまり:強い ロームブ粒子少量含む
- 2 暗褐色 粘性:強い しまり:強い 炭化物少量含む
- 3 暗褐色 粘性:強い しまり:強い ロームブロック少量含む
- 4 暗黄褐色 粘性:強い しまり:強い ローム主体

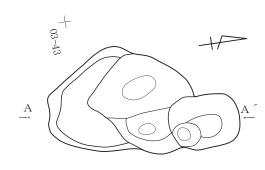
S K120





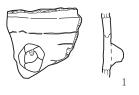
- 1 暗褐色 粘性:弱い しまり:強い ロームブ粒子微量含む
- 2 暗褐色 粘性:弱い しまり:弱い ロームブロック多量含む
- 3 暗褐色 粘性:弱い しまり:強い ロームブロック少量含む
- 4 暗黄褐色 粘性:弱い しまり:強い

S K123

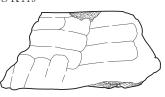




S K118



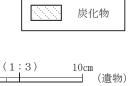












例 焼土



第6図 SK 116、118~120、123遺構及び出土遺物実測図